以上，初歩的な事柄であるが，“事実を確認する”ということの重要性を，あらためて認識させられた結果となった．今後さらに調べていく予定であるが，調査の協力と，データの提供をお願いしたい．

大屋町加保坂でカツラネクイハムシを採集

足立義弘

1981年6月5日，大屋町加保坂の湿地でネクイハムシの1種を採集した．のちに大阪市立自然史博物館の宮武頼夫先生にみていただいたところ，カツラネクイハムシDonacia katsurai Kimotoであった．博物館へ何頭か寄贈したのをのぞくと現在6頭の標本を保持しているので報告しておく．

ネクイハムシ類は鞘翅目，食葉群，ハムシ科，ネクイハムシ亜科に属する小型（4.5-10cm）の甲虫である．生態は，卵を水草の葉裏に産み，幼虫は水草の茎または根を土中で食べて成長，根元に繭をつむいで蛹となる．幼虫と蛹は第8節にある鈎状の気門を植物組織にさしこみ呼吸する．羽化した成虫は春から水面にでて，スゲ類の花や各種の挺水植物，浮葉植物の葉をかじり，交尾する．このような生活からネクイハムシ類は死後，生活場所の近くで堆積物中に埋没する機会が多いと推定される．そして日本各地の第四紀の泥炭質堆積物に昆虫化石としてひろく見られるようで，野尻湖発掘調査団昆虫グループによって，古環境の推定のために化石，現存種ともに調査されている．

カツラネクイハムシは，1980年に同グループの桂孝次郎氏によって発見された．分布は，同氏によると，九州と，本州では中国地方から近畿を経て岐阜県あたりまで記録されているとのことである．ただし種については再検討を要するらしい．

参考文献

野尻湖昆虫グループ，1980．ネクイハムシ類の検索づくりとそれにもとづく第2回陸上発掘でえられた化石の同定，野尻湖専門別グループ発表会資料集：67-87

野尻湖昆虫グループ，1981．日本産ネクイハムシ亜科に関する研究，大阪市立自然史博物館研究報告第34号：27-46

カツラネクイハムシ
（加保坂産）